



苗床発情魔法少女美遊ちゃんⅡ

馬獣姦・犬獣姦・猿獣姦・挑発レズ・産卵

DOJIN
R18
成人向け

女騎士の城

美少女魔法愛情床苗Ⅱ

馬轟・犬轟・豚轟 桃発いん。産卵



DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

【魔術師】「俺が悪かった……！許してくれっ！」
【美遊】「仕方ないですね……ただし条件があります」

私は美遊Ⅱエーデルフェルト。魔法少女の○学生です。
今は丁度、動物を操る低級魔術師を倒した所です。
彼は命乞いのため、私に土下座をしています。
私は興奮でゾクゾクしながら口を開きます。

はまはま

はまはま

ドキドキ

【魔術師】

「条件って……」

【美遊】

「貴方の魔術で動物を操り、私を犯させる事ですっ♡」

【魔術師】

「えっ！？えええええっつつつつ……！？」

私の提案に、魔術師は驚きの声を上げて目を見開いています。

私は過去に、触手に敗北し犯され卵を産み付けられた事があり、

その日から、私の子宮は精液を欲して発情するようになりました。

それ以来、魔法少女として戦うついでに、敵から精液を搾り取る事になっているのです。



【馬】「ブルウウウツツッ!」
【美遊】「ひっ! ああああつつ♡♡」

私と魔術師は近くの動物園へと忍び込み、
そこで飼われている馬に私を犯させました。
私の腕よりも太くて長いペニスに貫かれ、
私は悲鳴のような嬌声を漏らします。

【美遊】「あっ♡お、おなががつ♡ひぎっ♡♡」

すでに私は処女ではなく、触手や人間の男達相手と
何度も交わっていますが、馬と交尾するのは初です。
こんな巨大なペニスに子宮まで貫かれているのに、
触手に開発された私の体は、痛みを感じる事はなく、
全てを快楽として感じて、私を追い詰めて行きます。

【馬】「ビビイイツツッ!」
【美遊】「あぐっ! おおおおっつ!」

馬は私の子宮内を蹂躪し、数回ほどピストンした所で、私の子宮内に射精しました。恐ろしい量の精液が流れ込む感触で、私は一瞬で絶頂へと導かれます。

【魔術師】「すげ:馬に射精されてイッてやがる:」
【美遊】「あっ♡あっ♡精液でっ:♡イグッ♡」

魔術師が見ているにも関わらず、私の肉体は快樂でいう事を聞いてくれず、体を激しく痙攣させます。私はその後、馬が精液を吐き出し尽くすまで犯され、何度も何度も絶頂させられてしまいました。



翌日。私はいつも通り〇学校に登校し、その帰りにこっそりと魔術師の所へ行きました。魔術師はニヤニヤと笑みを浮かべ、私を犯すために用意していた獣を見せつけます。その猿は、すでに魔術をかけられており、魔術師の言いなりになっています。

【美遊】「それじゃ、今日もよろしく…♡」

【魔術師】「へへっ…ほら、犯せ!」

【美遊】「あっ♡あああっっ…♡」

猿は後ろから私にしがみ付き、そのままペニスをねじ込んで来ました。流石に昨日の相手ほど巨大なペニスではありませんが、人間のモノに近いそれは、私の膣内にフィットし、そして人間よりも激しく腰を動かす、私を犯します。私はその場に立ったまま、猿の獰猛な突き上げを受け入れ、それを締め付けました。



【猿】「キキツ……ウキイ!!」

【美遊】「あっ……♡んんうっ……♡」

猿は私の膣が気持ちよかったのか、予想より早く射精しました。人間よりも小柄な獣ではありますが、その体には人間よりも大量の精液が蓄えられており、私の子宮を満たして行きます。

【美遊】「クスクス……♡ お猿さん、私の中気持ちいい? たっぷり中に出していつてね……♡」

私がそう告げると、猿はさらに腰を突き上げ、子宮内部に精液を吐き出します。子宮を満たした精液は、膣の隙間から外へと溢れ、地面に染み込んで行きます。学校帰りの○学生が猿と交尾してるという事実、私は興奮で体を震わせました。



【美遊】「今日はこの子ですか？おなか出して可愛い♡♡」

【魔術師】「へへっ…ほら、アシタに絶対服従のポーズ取ってるんだ、おなかを撫でる代わりに、チンポを気持ちよくしてやんな」

さらに翌日。再び学校帰りの私に、魔術師が用意した相手は野良犬でした。犬は犬らしく腹を見せ、私に勃起したペニスを見せつけます。私は遠慮なくその上へと跨り、異形のペニスを飲み込みました。

【美遊】「よしよし♡ワシちゃんどう？気持ちいい？」
【犬】「ワフッ…！ワフウウンッッ…」

野良犬は腰をくねらせ、ペニスを押し込んで来ます。私も腰を動かし、そのペニスを子宮内部へと導きます。少し尖った先端に子宮内を突かれる刺激で、体が跳ね上がってしまいます。



【犬】「グルツ…グルウウウツツツッ!」
【美遊】「おっ…♥ ああああつつつ♥♥♥♥」

私の膣と子宮の感覚に我慢しきれなかったのか、
野良犬は挿入してすぐに、私の子宮内に精液を吐き出しました。
獣特有の精液量の多さに、人相手では得られない感覚に、
私は体を震わせます。

【美遊】

「おっ♥ おおおっ♥

精液止まらないっ♥ ひっ♥」

まるで放尿でもしているのかのような大量の精液。
精液中毒になった子宮が喜んでいるのがわかります。
気持ち良すぎる。私は犬にまたがったまま、甘い声を上げ続けました。



そして翌日。私は魔術師との待ち合わせ場所へ向かいます。
しかし、魔術師と合流した所で、残念な事が起きてしまいました。

【魔術師】

「す、すまねえ…魔力が枯渇しちゃって…」

【美遊】

「…魔力の枯渇…？あの程度で…？雑魚すぎる…」

【魔術師】

「頼む…許してくれっ…」

ははは

ヒキキ

ははは



魔術師は連日、魔術を使用して動物を操っていました。
しかしどうやら、その魔力が尽きてしまったようです。
私の魔力量と比較しても、一割にも満たないクソ雑魚魔力量です。
こんな雑魚魔力しかないくせに、よく悪事を働けたものだと思えます。
ともあれ、このままでは何もできません。私の発情も収まりません。
私は少し考えた後、少しだけこの魔術師に魔力を分け与えてやる事にしました。

【美遊】

「…仕方ありませんね。動物を使役できないなら、貴方の体で満足させて頂きますからねっ♡」

「ついでに私の魔力も少しだけ分けてあげます♡」

【魔術師】

「えっ…?!? お、俺が直接…?!?」

私は魔術師に尻を向け、オマンコを広げて見せつけます。

私の膣口からは、連日の獣姦でため込まれた

精液があふれ出し、地面に堕ちて行きます。

それを見て、魔術師は生唾を飲み込み、

そのペニスを勃起させて行きます。

はははは

はははは

ヒキキ

【魔術師】

「ほ、本当にヤツていいんだな…?」

【美遊】

「クスクス…♡はい、構いませんよっ♡」

好きなだけ犯して中出しして下さいっ♡」

私が魔術師にそう告げると、彼の理性は吹き飛びました。彼はペニスを露出させ、背後から私を押し倒しました。

ザグッ



【魔術師】

「うおおおっ！」

【美遊】

「ひっ！ ああああっっ♡♡」

魔術師は獣のような勢いで私にペニスを突き刺しました。
流石に馬には劣るものの、クソ雑魚魔術師の癖には
逞しい肉体とペニスに、私の子宮が屈服します。
こんな雑魚に犯されてる、気持ちよくさせられてる。
その事実が私を興奮させ、無意識に男に媚びて、膣を締め付けます。
まるでか弱い○学生が、変態にレイプされているような、
そんな背徳的な状況に、私は悲鳴のような喘ぎ声を漏らし続けます。



【魔術師】

「し、絞り取っ…

ぐあああっつ！」

【美遊】

「んっ…おおおっつ…♡♡♡」

魔術師は私の締め付けに我慢できず、すぐに射精しました。興奮しているのか、魔術師は力任せに私の体を押さえつけ、子宮口に先端を叩きつけながら、強引に精液を流し込んで来ます。本当にレイプされてる。妊娠させる勢いで中出しされてる。一流の魔法少女である私が、こんな雑魚魔術師に。私は何度も絶頂しながら、魔術師の精液を根こそぎ絞りつくしました。



ははは

ゴキキ

うん

ははは

そしてその翌日。
私は水泳の授業に参加していたのですが、
その最中に、下腹部に張りを感じて、
体調不良を申し出て授業を抜け出しました。
恐らく、連日大量に搾り取った精液で、
触手の卵が成長したのでしょう。

【美遊】「まさか学校で…」

しかし、子宮の卵は私の都合など
考えてくれるはずありません。
私はトイレに入り、膣口を広げました。

うん

♡♡♡

ハハハ

ク
ー
ー
ー

うん



私が膣口を広げ、下腹部に力を入れると、子宮の奥から大粒の卵が押し出され、膣口を通り外へとあふれ出します。精液を固めてセリーにしたような、プルプルとした弾力のある卵が、子宮口と膣口を通り抜ける際、大量の媚薬を分泌させているのか、私の体に強い刺激が与えられます。

【美遊】

「んぐつつ…♡♡♡」
「あああつ…♡♡♡」

ははは

ビキキ

んん

♡♡♡

んんん

んんん

【美遊】

「んっ…♡ま、まだ出てるっ♡♡
あああああつつっ…！」

人間だけでなく、動物の精液も大量に搾り取ったからか、卵は次から次へと産み落とされ、止まる気配がありません。私の小さい体で、こんなに沢山の卵が育っていたのかと思うと、その背徳感にゾクゾクと興奮してしまいます。私は一つ卵を産み落とすたびに絶頂し、体を震わせ声を上げ、愛液を溢れさせ、その快楽に浸っていました。

【美遊】

「はあっ…♡♡はあっ…♡♡これで最後かな…♡♡」

下腹部の圧迫感が消え、最後の卵を産み落とした所で、私は絶頂の疲れで、トイレの壁にもたれかかりました。冷たい壁の心地よさと、絶頂の余韻を少し楽しんだ後、私は平静を装って、クラスの皆の所に戻りました。

はあはあ

はあはあ

はあはあ

ビキキ



はあはあ

ビキキ

【女子】
【美遊】

「美遊ちゃん、大丈夫？」
「美遊ちゃんが体調不良なんて心配したんだよ」
「んっ…♡ちよっとお腹が痛かったただだから…♡」

教室に戻ると、クラスメイトの女子が私を心配してくれています。
私が何をしていたのか、彼女達に話せるはずありません。

ははは

ヒキキ

きんきん

びび

ザッ

【男子】
【男子】

「…なんか美遊からいい匂いしない？」
「わかる…妙にドキドキするよう…」

ははは

そして男子は、私が放つメスの匂いに反応しているようです。
流石に○学生相手に交わる気などありませんが、もし彼らが、
私がやっていた事を知ったら、どういう反応をするでしょうか。
こんな事をやっていたら、いつかそれがバレる日が来るかもしれない。
でもこんなに気持ちのいい事、やめられそうにありません。

♡♡♡

●発行 鎖の少女&女騎士の城
<http://knightmaster.kir.jp/>
●責任者 ナイト
general@kagoya.net
●作成 雪味あいりす & ナイト
●日付 2023年08月13日
●印刷 プリントプロ
※18歳未満の購読禁止
※無断転載禁止

































馬轟・犬轟・豚轟 桃発レイン・産卵



【魔術師】「俺が悪かった……！許してくれっ！」
【美遊】「仕方ないですね……ただし条件があります」

私は美遊Ⅱエーデルフェルト。魔法少女の○学生です。
今は丁度、動物を操る低級魔術師を倒した所です。
彼は命乞いのため、私に土下座をしています。
私は興奮でゾクゾクしながら口を開きます。

はまはま

はまはま

ドキドキ

【魔術師】

「条件って……」

【美遊】

「貴方の魔術で動物を操り、私を犯させる事ですっ♡」

【魔術師】

「えっ！？えええええっつつつつ……！？」

私の提案に、魔術師は驚きの声を上げて目を見開いています。

私は過去に、触手に敗北し犯され卵を産み付けられた事があり、

その日から、私の子宮は精液を欲して発情するようになりました。

それ以来、魔法少女として戦うついでに、敵から精液を搾り取る事になっているのです。



【馬】「ブルウウウツツッ!」
【美遊】「ひっ! ああああつつ♡♡」

私と魔術師は近くの動物園へと忍び込み、
そこで飼われている馬に私を犯させました。
私の腕よりも太くて長いペニスに貫かれ、
私は悲鳴のような嬌声を漏らします。

【美遊】「あっ♡お、おなががつ♡ひぎっ♡♡」

すでに私は処女ではなく、触手や人間の男達相手と
何度も交わっていますが、馬と交尾するのは初です。
こんな巨大なペニスに子宮まで貫かれているのに、
触手に開発された私の体は、痛みを感じる事はなく、
全てを快楽として感じて、私を追い詰めて行きます。

翌日。私はいつも通り〇学校に登校し、その帰りにこっそりと魔術師の所へ行きました。魔術師はニヤニヤと笑みを浮かべ、私を犯すために用意していた獣を見せつけます。その猿は、すでに魔術をかけられており、魔術師の言いなりになっています。

【美遊】「それじゃ、今日もよろしく…♡」

【魔術師】「へへっ…ほら、犯せ！」

【美遊】「あっ♡あああっっ…♡」

猿は後ろから私にしがみ付き、そのままペニスをねじ込んで来ました。流石に昨日の相手ほど巨大なペニスではありませんが、人間のモノに近いそれは、私の膣内にフィットし、そして人間よりも激しく腰を動かす、私を犯します。私はその場に立ったまま、猿の獰猛な突き上げを受け入れ、それを締め付けました。



【猿】「キキツ……ウキイ!!」

【美遊】「あっ……♡んんうっ……♡」

猿は私の膣が気持ちよかったのか、予想より早く射精しました。人間よりも小柄な獣ではありますが、その体には人間よりも大量の精液が蓄えられており、私の子宮を満たして行きます。

【美遊】「クスクス……♡ お猿さん、私の中気持ちいい? たっぷり中に出していつてね……♡」

私がそう告げると、猿はさらに腰を突き上げ、子宮内部に精液を吐き出します。子宮を満たした精液は、膣の隙間から外へと溢れ、地面に染み込んで行きます。学校帰りの○学生が猿と交尾してるという事実、私は興奮で体を震わせました。



【美遊】「今日はこの子ですか？おなか出して可愛い♡♡」

【魔術師】「へへっ…ほら、アシタに絶対服従のポーズ取ってるんだ、おなかを撫でる代わりに、チンポを気持ちよくしてやんな」

さらに翌日。再び学校帰りの私に、魔術師が用意した相手は野良犬でした。犬は犬らしく腹を見せ、私に勃起したペニスを見せつけます。私は遠慮なくその上へと跨り、異形のペニスを飲み込みました。



【美遊】「よしよし♡ワシちゃんどう？気持ちいい？」

【犬】「ワフッ…！ワフウウンッッ…」

野良犬は腰をくねらせ、ペニスを押し込んで来ます。私も腰を動かし、そのペニスを子宮内部へと導きます。少し尖った先端に子宮内を突かれる刺激で、体が跳ね上がってしまいます。

【犬】「グルツ…グルウウウツツツッ!」
【美遊】「おっ…♡ ああああつつ♡♡♡♡♡」

私の膣と子宮の感覚に我慢しきれなかったのか、
野良犬は挿入してすぐに、私の子宮内に精液を吐き出しました。
獣特有の精液量の多さに、人相手では得られない感覚に、
私は体を震わせます。

ははは

【美遊】

「おっ♡ おおおっ♡

精液止まらないっ♡ ひっ♡」

まるで放尿でもしているのかのような大量の精液。
精液中毒になった子宮が喜んでいるのがわかります。
気持ち良すぎる。私は犬にまたがったまま、甘い声を上げ続けました。

ははは

ドキキ

ははは

ドキキ

ドキキ

ドキキ

ははは

ははは

ははは

そして翌日。私は魔術師との待ち合わせ場所へ向かいます。
しかし、魔術師と合流した所で、残念な事が起きてしまいました。

【魔術師】

「す、すまねえ…魔力が枯渇しちゃって…」

【美遊】

「…魔力の枯渇…？あの程度で…？雑魚すぎる…」

【魔術師】

「頼む…許してくれっ…」

ははは

ヒキキ

ははは



魔術師は連日、魔術を使用して動物を操っていました。
しかしどうやら、その魔力が尽きてしまったようです。
私の魔力と比較しても、一割にも満たないクソ雑魚魔力量です。
こんな雑魚魔力しかないくせに、よく悪事を働けたものだと思えます。
ともあれ、このままでは何もできません。私の発情も収まりません。
私は少し考えた後、少しだけこの魔術師に魔力を分け与えてやる事にしました。

【美遊】

「…仕方ありませんね。動物を使役できないなら、貴方の体で満足させて頂きますからねっ♡」

「ついでに私の魔力も少しだけ分けてあげます♡」

【魔術師】

「えっ…!?!? お、俺が直接…!?!?」

私は魔術師に尻を向け、オマンコを広げて見せつけます。

私の膣口からは、連日の獣姦でため込まれた

精液があふれ出し、地面に堕ちて行きます。

それを見て、魔術師は生唾を飲み込み、

そのペニスを勃起させて行きます。

はははは

はははは

ヒキキ

【魔術師】

【美遊】

「ほ、本当にヤツていいんだな…?」
「クスクス…♡はい、構いませんよっ♡」
「好きなだけ犯して中出しして下さいっ♡」

私が魔術師にそう告げると、彼の理性は吹き飛びました。彼はペニスを露出させ、背後から私を押し倒しました。

ザグッ



【魔術師】

「うおおおっ！」

【美遊】

「ひっ！ ああああっっ♡♡」

魔術師は獣のような勢いで私にペニスを突き刺しました。
流石に馬には劣るものの、クソ雑魚魔術師の癖には
逞しい肉体とペニスに、私の子宮が屈服します。
こんな雑魚に犯されてる、気持ちよくさせられてる。
その事実が私を興奮させ、無意識に男に媚びて、膣を締め付けます。
まるでか弱い○学生が、変態にレイプされているような、
そんな背徳的な状況に、私は悲鳴のような喘ぎ声を漏らし続けます。



【魔術師】

「し、絞り取っ…

ぐああああっ！」

【美遊】

「んっ…おおおっ…♡♡♡」

魔術師は私の締め付けに我慢できず、すぐに射精しました。興奮しているのか、魔術師は力任せに私の体を押さえつけ、子宮口に先端を叩きつけながら、強引に精液を流し込んで来ます。本当にレイプされてる。妊娠させる勢いで中出しされてる。一流の魔法少女である私が、こんな雑魚魔術師に。私は何度も絶頂しながら、魔術師の精液を根こそぎ絞りつくしました。



ははは

ゴキキ

うん

ははは

そしてその翌日。

私は魔術師の所に移動していたのですが、その最中に、下腹部に張りを感じて、近くの公園の公衆トイレへと向かいました。恐らく、連日大量に搾り取った精液で、触手の卵が成長したのでしょう。

【美遊】

「まさかこんな所で…」

しかし、子宮の卵は私の都合など考えてくれるはずありません。私はトイレに入り、膣口を広げました。

うん



ハハハ

ク
ー
ー
ー

うん

【美遊】

「んぐつつ…♡♡♡」
「あああつ…♡♡♡」

私が膣口を広げ、下腹部に力を入れると、子宮の奥から大粒の卵が押し出され、膣口を通り外へとあふれ出します。精液を固めてゼリーにしたような、プルプルとした弾力のある卵が、子宮口と膣口を通り抜ける際、大量の媚薬を分泌させているのか、私の体に強い刺激が与えられます。

ははは

ニギキ

んん

んんん

んんん



「んっ…♡ま、まだ出てるっ♡♡

「んっ…♡ま、まだ出てるっ…
ああああああっっっ…!」

人間だけでなく、動物の精液も大量に搾り取ったからか、卵は次から次へと産み落とされ、止まる気配がありません。私の小さい体で、こんなに沢山の卵が育っていたのかと思うと、その背徳感にゾクゾクと興奮してしまいます。私は一つ卵を産み落とすたびに絶頂し、体を震わせ声を上げ、愛液を溢れさせ、その快楽に浸っていました。

「はあっ…♡はあっ…♡これで最後かな…♡」

下腹部の圧迫感が消え、最後の卵を産み落とした所で、私は絶頂の疲れで、トイレの壁にもたれかかりました。冷たい壁の心地よさと、絶頂の余韻を少し楽しんだ後、私は平静を装って、トイレの外へと出て行きました。

はまはま

はまはま

ひん

トキ

【男】「うおっ……!? バニーガールの女の子っ……!?」
【美遊】「こんばんは、おにーさんっ♡」

私が外へ出ると、トイレに入ろうとする男の人と遭遇しました。
その男の人は、バニーガール姿の私を見て混乱するも、
私の体から目を離すことが出来ないようでした。

ははは

ヒキキ

ははは

【美遊】「……おにーさん、私の事がシ見です♥」

○学生バニーガール、そんなに好きなんですか？」
【男】「い、いやっ……そういうわけではっ……」

私がそう言うのと、男の人は軽く顔をそむけます。
しかしその視線は、私の体に注がれているのがバレバレです。
丁度良いし、獣と交尾する前に、この人から軽く絞っておこうかな。
私はそう考え、うるたえる男の人に歩み寄っていくのでした。



ザッ

●発行 鎖の少女&女騎士の城
<http://knightmaster.kir.jp/>
●責任者 ナイト
general@kagoya.net
●作成 雪味あいりす & ナイト
●日付 2023年08月13日
●印刷 プリントプロ
※18歳未満の購読禁止
※無断転載禁止































